

V210a 東京大学アタカマ天文台 TAO 6.5m 望遠鏡計画の進捗状況

吉井讓 (東京大学, アリゾナ大学), 土居守, 河野孝太郎, 宮田隆志, 田中培生, 本原顕太郎, 峰崎岳夫, 田辺俊彦, 酒向重行, 諸隈智貴, 廿日出文洋, 小西真広, 高橋英則, 青木勉, 征矢野隆夫, 樽沢賢一, 加藤夏子, 上塚貴史, 鮫島寛明, 浅野健太郎 (東京大学), 田村陽一 (名古屋大学), 越田進太郎 (国立天文台), 半田利弘 (鹿児島大学) 他

東京大学アタカマ天文台 (TAO) 6.5m 望遠鏡計画は、南米チリ・アタカマ高地のチャナントール山山頂 (標高 5640m) に口径 6.5m の赤外線望遠鏡を設置して宇宙論から星惑星形成までの幅広いサイエンスを大学望遠鏡として柔軟に展開しようとする計画である。東京大学理学系研究科附属天文学教育研究センターによって推進されており、現在、チリ現地での建設工事が佳境に入りつつある。本講演ではその現状を報告する。

望遠鏡本体はすべての製造が完了し、2018 年頭に仮組みと駆動試験が終わって梱包状態で輸出を待つ状態であったが、2018 年 9 月の台風 21 号で被災し、甚大な被害を受けた。幸いなことに補正予算が措置され、2019 年度中には被災部分の再製作が完了する予定である。主鏡面を蒸着するための大型真空蒸着釜は中国・大連で製造が進められており、2019 年度末に完成予定である。エンクロージャは大阪府能勢町での仮組み立て及び試験の終了後に解体され、現在輸送用梱包の作業が進められている。また、エンクロージャ及び望遠鏡の基礎のためのプレキャストコンクリートはチリ・サンチャゴ市内で製造が完了している。チャナントール山頂アクセス道路の拡幅工事及び山頂整地工事が現在進行しており、いよいよ 2019 年後半から山頂でのドームの組み立てが開始される予定である。